

(様式1)

# 自己評価表

(西条農業高等学校)  
学校番号(10)

グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)
<p>○自ら学び、自ら考えて行動できる力を育成します。(主体性)</p> <p>○他者とのつながりの大切さを理解し、他者と協働できる力を育成します。(協働性)</p> <p>○地域の豊かな未来を主体的に創造する力を育成します。(地域創造)</p>	<p>○実習や課題研究を通して、自ら課題を発見し、主体的に解決策を考える力を高めます。</p> <p>○交流活動や販売実習を通して、他人と協力する態度を育てます。</p> <p>○地域と連携した農業教育を通して、地域と関わろうとする態度を育てます。</p>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
ボグラ リシ ンデ ュー エー シ ョ ン	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合	C	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、60%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしているが、32%が「どちらとも言えない」8%が、「あまり成長していない」「成長していない」という否定的な評価をしている。	経験する、心を動かすことで、グラデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長を促す。
学習指導	学習習慣の確立	ICTを利用した教科の宿題・課題をきちんとこなすなど、家庭学習を習慣化させる。(平日1時間、検査中2時間以上)	C	検査中の家庭学習時間の平均は、73分(昨年度84分)であった。平均時間は減っているかもしれないが、中間検査を実施したので、試験範囲が狭まり、学習のための時間を確保できた。今後も、家庭学習の習慣化を図って、適切に課題を与え、指導していかなくてはならない。	まずは、授業中の学習活動を充実させたい。一斉指導型では、学習活動に取り組みにくい生徒も、少人数講座で、学習支援や教え合い活動に取り組みせると、主体性を発揮することが多い。次年度は、スタディサプリを授業でも活用していきたい。
	学習の質の向上	従来の指導方法に加え、ICTの利用等で効果的な学習を実践するなど授業満足度の向上を目指す。また、各学期末の授業アンケートを基に授業改善に各教科で取り組む。	B	ICTを活用した授業実践に各教科取り組んでいる。また、その実践や効果的な指導方法の自主研修にも取り組んでいる。一方で、授業アンケートの結果から、改善が必要であると思われるものもあるので、授業実践についても研修が必要である。	次年度も相互授業参観週間を設け、教職員同士でICT活用実践力や授業力を高めるようにしたい。ICT活用のよさと、紙とペンでの学習のよさを取り入れた授業実践も研究していきたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	適切な言葉遣い、マナーを守って生活する。また、生活のリズムをしっかりと作り、出席率95%を目指す。A:95%以上、B:94~85%、C:84~75%、D:74~65%、E:65%未満 身だしなみ指導1回目での合格率90%以上を目指す。A:90%以上、B:89~75%、C:74~65%、D:64~50%、E:50%未満	C	今年度より男子の頭髪の規定を変えたため、身だしなみ指導の1回目の不合格が目立った。前髪は、「男子もピンで留める」やツーブロックは今年、検討しながらスタートしたため横髪の長さが守れない生徒が目立った。身だしなみ指導1回目合格率62%。	校則検討委員会を発足させるため、今年度の課題を生徒とともに考え、自主的に身だしなみを整え、交通安全面などもマナーアップする生徒を育成したい。
	規範意識の高揚	社会規範や公共道徳を守る意識を育てる。生徒・保護者と教職員が共通理解を図り、生徒の安全を確保し、学習環境を整える。 また、生徒会を主体として校則の見直しを行う。	C	無断アルバイト数が多く、家庭の協力を得ながら、規範意識を高めた。スマホの学校での使用に対する指導が50件前後となり、対症療法的な指導でなく根本的な解決策が必要である。	家庭の協力体制が不十分なところが多く、生徒の意識を変えるためには、連絡を密にし改善していくしかない。

特別活動	学校行事・部活動の充実	部活動の活性化（ <u>加入率85%以上</u> ）を推進する。 生徒会が中心となって学校行事の運営や改革を行う。 学校行事において生徒の主体的活動を引き出す。	B	部活動の活性化では、全体では入部率が67%と低い、1、2年生では74%と入部率が向上した。そのため、団体種目にて本校単独で3競技出場できるようになった。 学校行事では、生徒会と検討する機会を増やし意欲的に活動ができた。	部活動入部率80%以上を目指し、入部者が年間を通して活動しやすい環境を構築していきたい。 学校行事において、生徒会を中心に検討の場を増やし、理解、納得した上で生徒が自主的に活動できる場面を作っていくたい。
相談支援	教育相談・特別支援教育の充実	<u>教員間で連携を取りながら生徒理解を深め、悩みや困り感を抱える生徒や、支援を必要とする生徒またその保護者との相談活動を充実させる。</u> <u>学習や生活上での困難さを持つ生徒に対して、学校全体で支援体制を確立し、通級による指導等、個に応じた適切な支援や指導を行うよう努める。</u> <u>通級指導による単位修得率</u> A:100% B:99~80% C:79~60% D:59~40% E:40%未満	B	スクールライフアドバイザーによる新入生全員との面談、各学期1回実施の学校生活アンケートを基にした担任による面談、支援を要する生徒やその保護者との定期的な面談を通して悩みの実態把握を行い、教職員や関係機関との連携を深める相談活動が実施できた。 本年度から設置された通級による指導においては、昨年度の準備に従って進め、問題なく実施し、障害者手帳を活用した就職も無事に内定いただけただけ。単位修得については年度末になるが、生徒は出席・学習内容ともに順調であった。	支援を要する生徒に対する生徒指導の在り方、生徒や保護者との教育相談のスキル向上について、教員の理解を深める必要性を感じている。今後の校内研修や資料提供など積極的に取り組んでいきたい。 通級における指導については、初年度の取り組みを検証し、より学習内容の充実や担当者の指導力強化を目指したい。
進路指導	進学指導の充実	生徒の進路実現のため、3年間を見通した計画的な指導を行う。 課外への出席率100%を目指し、学びに向かう学力を高めさせる。 オープンキャンパスへの参加率100%を目指し、最適な進学先を選択させる。 第一志望校への進学100%を実現する。 A:100%、B:99~90%、C:89~80%、D:79~70%、E:70%未満	B	課外出席率90%（評価B）。教科担当の熱心な指導により、生徒の進路意識が向上した。オープンキャンパス参加率100%（評価A）。数回参加したり、2校以上参加して、進路を確定させた生徒もいた。 第一志望校への進学96%（評価B）。国立大学への進学は1名である。	課外については、引き続き基礎学力向上につながる取り組みとして継続したい。オープンキャンパスには早い段階から積極的に参加を勧めたい。国立大学進学に関する教員間の共通理解と具体的な指導方法の見直しを図り、合格につなげていきたい。
	就職指導の充実	進路に関する面接機会をできるだけ多く設け、生徒の適性を見出す。 応募前見学への参加率100%を目指し、職業観を確立させ、企業とのミスマッチをなくさせる。 就職内定率100%を実現する。 A:100%、B:99~95%、C:94~90%、D:89~85%、E:85%未満	B	応募前見学参加率100%（評価A）。一人3か所以上の見学を行い、比較検討することができた。就職内定率96%（評価B）。未内定者2人に対しても、面談を行い、サポートしたい。	求人を見学できるのが、保護者も見えていただくことができ、家庭内での話し合いに効果的であった。通級生徒について、相談支援課で対応していたが、内定につなげることができた。
<食農科学科> 地域との繋がり、専門教育・研究活動の充実		生徒の地域活動への参加を通して、自己の知識・技術の深化を進める。地域活動への参加率100%を目指し、コミュニケーション能力を高める。 A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:50%以上 E:50%未満 積極的・意欲的にプロジェクト学習に取り組ませることで、人間力を養う。 各部門校内大会への参加率100%を目指す。 A:100~80%以上 C:60%以上 D:50%以上 E:50%未満	C	産業祭、各種イベントやアンテナショップ、商品開発の実現など、今年度も多くの生徒が参加できた（A100%）。外部とのかかわりの中で、生徒の活躍が活性化でき、コミュニケーション能力の向上にもつながったと感じる。また、プロジェクト学習の充実に伴い、農科校内大会への全部門の参加や入賞などの成果も上がった。また、全国規模の外部コンテストでもたくさんの応募ができ、全国入賞の評価につながり生徒のやる気も刺激できた。（A100%）さまざまなメディア発信もでき、各部門での取組が生徒の成長に効果的であった。	今年度の3年生が多くの活躍を見せる中で、3年計画での生徒の指導が大切だと実感した。取組としては学科全体ではあったが、成果としては、まだまだ個人のスキルに頼っている。イベント等への参加数は100%ではあったが、コミュニケーションの能力の向上は差があったので、組織的に指導する体制を作り高めたい。今後は、プロジェクト活動の成果検証と地域貢献の実績を具体的なつながりになるよう計画し、組織的な取組として努力したい。学科として、行う特色ある取組が今年度特色選抜の募集に影響があったと感じる。今後は、学科の良さである、商品開発や地域交流、イベント参加をプロジェクト学習との連動をさらに強くし、生徒募集や生徒の進路実現につなげたい。

農業教育	<環境工学科> 地域との繋がり、専門教育・資格取得の充実	地域人材を活用して国家資格や各種検定等の合格率80%を目指す。 A:80%以上、B:79~70%、C:69~60%、D:59~50%、E:50%未満 各種コンテスト等に積極的に取り組み、5点以上応募する。 A:5点以上、B:4点、C:3点、D:2点、E:1点	B	トレース検定17/17 100%合格 造園技能士3級2/2 100%合格 土木施工管理士0/1 0% 測量士補0/3 0% 愛媛大学社会共創コンテスト 奨励賞 環境ユースコンテスト四国大会 優秀賞 第5回ローカルSDGs四国大会等に応募	測量士補、土木施工、造園管理技能士の受験者数の増加と合格率をあげるために、放課後の課外を利用し、より専門的な知識と技術の習得を目指したい。 棚田保全活動の充実を図るために、環境科学、水環境、地域資源活用の充実を図りたい。
	<生活デザイン科> 地域との繋がり、専門教育・資格取得の充実	アクティブラーニングを推進し、学びに向かう人間性を育成する。 基礎・基本的技術を定着させ、家庭科技術検定合格率80%を目指す。 一人一台タブレット端末を活用した授業を積極的に実施する。学校情報化認定のチェックでレベル2以上を目指す(学科内で測定)。	C	家庭科技術検定合格率は、食物1級54%、食物準1級93%、被服1級和服73%、準1級和服21%、準1級洋服67%であった(評価C)。一人1台端末を活用した授業を積極的に実施した(レベル2)。	検定については、練習の回数を増やしたり、個別指導を通して合格率を高めた。一人一台端末については有効に活用できているが、さらに教員側の研修を行い、知識や技術の向上に努めたい。
	<農業クラブ活動> 農業クラブ活動の活性化	行事の案内や競技結果を公表し、各種諸行事への積極的参加を呼びかける。 県大会での入賞率50%以上、全国大会での入賞100%を目指す。 (県大会)A:50%以上、B:49~40%、C:39~35%、D:34~30%、E:30%未満 (全国大会)A:100%、B:99~80%、C:79~60%、D:59~50%、E:50%未満	D	県大会入賞率30%、全国大会入賞率0%。数値目標は達成することができなかったが、プロジェクト発表の部で全国大会出場、意見発表の部2部門で四国大会入賞を果たすなど、着実に成果を残すことができた。また、農業クラブに関連する各種コンテスト等でも数々の賞を受賞することができた。	数値目標達成のために、県大会出場者への指導を徹底していきたい。また、農業科において農業クラブ活動は農業教育の基本である。短期的な視点にとらわれることなく長期的な視点でも活動の活性化に努めたい。来年度は、農業クラブ全国大会南四国大会(徳島県・高知県)が開催される。四国ブロックの一員として大会の成功に貢献できるよう尽力したい。
総務	PTA活動の活性化と広報活動の充実 校内諸行事の円滑な運営	保護者が学校行事へ積極的に参加できるよう、行事内容を工夫し、マチコみやSNSでの発信などを通して、出席率の向上を図るとともに、広報活動を充実させる。 各課、学年との連携を強化し、各種諸行事の充実を図る。	B	産業祭におけるワークショップの計画、実施をPTA役員の方々が積極的に関わっていただき、昨年以上に有意義な活動にできた。また、マチコミメールを活用し、奨学金案内など保護者への連絡を充実させることができた。規程集の見直しを行い、PTA会則、褒章規程の適切な改訂を実施できた。	PTA活動の活性化を目標としたが、理事の確保、総会の出席率向上を図ることが出来なかった。令和7年度のうちに、新理事の見直しを付けるとともに、学年、課との連携を再度見直し、総会当日の企画を考え、出席率の向上を図りたい。また、総会出席率などの具体的な数値目標を設定し、目標達成のための具体的な方法を検討したい。
環境厚生	美化意識の高揚 地域への貢献	地域へのボランティア活動を年2回実施する。 地域に役立てる人材を育成する。 総合的な探究の時間を積極的に活用することで、地域のために役立てる生徒を育てる。	C	・年2回実施できた。各学科の活動として絵本の読み聞かせ、棚田の保全活動などの活動もある。 ・清掃活動などを通して、地域の環境保全に貢献できる人材の育成ができた。 ・総合的な探究の授業では地域の特産品についてwebページの作成するなど、地域の魅力の再発見とそれを活かせる生徒の育成をしている。	地域と共に管理する場所の場合各団体との連携を図る。 各学科で行っている地域貢献につながる活動の情報共有。 総合的な探究の時間の学習内容のポスター展示など
人権教育	人権・同和教育の充実	互いに認め合う集団づくりを行い、生徒一人一人を大切に、進路実現に向けての進路保障に努める。 人権・同和教育についての研修や情報発信の充実に努め、生徒の自己肯定感や人権意識の向上を図る。	A	毎月「人権を考える日」にかかわって、西条市の人権擁護課の資料などを提示し情報発信を行うとともに、教員や生徒に研修会等への参加を促し、人権意識の向上を図った。	人権委員会などで、積極的に人権・同和教育HR活動などに関われるようにし、各研修会等への参加などを通して、生徒の人権意識や自己肯定感の向上や望ましい仲間づくりについて学ぶ機会を設ける。教職員の人権意識の向上を図るための研修を充実させる。
図書教育	読書指導の充実	授業との連携を図り、一人当たりの年間貸出冊数3冊以上を目指す。 朝の読書を充実させ実施し、静寂の中で全員が読書を行うよう指導する。	B	朝の読書期間と関連させ、ホームルーム活動や国語の授業で行うことができた。一人当たりの年間貸出冊数は2.8冊であり、健闘していると考えている。 1年生を対象にした朝の読書に関するアンケートでは、生徒たちは真剣に取り組むことができ、今後も継続していると考えている。	生徒が好んで読む本が多様化し、これまでの6年間と人気の本の傾向が変わってきた。生徒たちの多様なニーズに応えるため、精査が必要であると感じている。

研修	校内外研修の充実とICT活用力の育成	基礎研修の充実を図り、教員のライフステージに応じた資質・能力の向上・定着を図る。 校内外における研修を充実させ、教員の資質向上を図るとともに、 <u>学校管理下における事故の防止に役立つ知識を身に付ける。</u>	C	基礎研修においては、概ね良好であると考えているが、研究授業が十分に実施できなかったところが課題。 事故防止のために「熱中症対策アンバサダー講座」を開催したが、出席率が低かった。	基礎研修においては、それぞれの事情を考慮して計画的に計画すべきだった。 校内研修においては、強制力はないものの、粘り強く呼びかけていきたい。
業務改善	勤務時間の適正化	勤務時間外在校時間を毎月45時間以内とする。 校務の効率化に努めるとともに教職員全体の更なる行動改革を進め、適正な勤務時間に対して積極的に評価する。	B	昨年度に比べ、退勤時間が早くなったものの、1か月あたり、平均5名程度の教職員が45時間を超えている。	管理職による面談、声掛けの推進により、一人一人の勤務時間管理への意識の向上を図っていきたい。
	職場環境の整備	学年団・教科・各課内での情報交換や連絡を密にし、仕事の質を上げる。 IT機器の有効利用や仕事の重要度・緊急性の観点から仕分けや整理を行い、業務の効率化を図る。 教職員との健康相談や面談を定期的実施し、円滑な人間関係の構築に努める。	B	普段の授業に際しても、一人一台端末の導入により効果的な活用が見られ、業務の効率化を図ることができた。	会議での伝達事項の絞り込み、効果的な情報共有を心がけることで、会議の簡素化や会議の終了時間の厳守に努めたい。 テレワークや年休を利用する職員も多く、全体的にそれを温かく容認する雰囲気づくりができています。今後とも、休みやすい雰囲気を醸成していきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。